三〇、

乍恐書付を以奉願上〆

当御支配所羽前村山郡松橋村名主堀米四郎兵衛奉申上〆先　御支配中私儀硝石献納奉願上御
聞済の上去々巳年中硝石目方百貫江戸表江為差登献納相済の処御請取書御下ヶ無之ハ間右御
下ヶ御座ハ様仕度此段乍恐書付を以偏ニ奉願上〆　以上

右
松橋村
名主　堀米四郎兵衛

慶応三卯年
（一八六七年）
十二月十二日

山田佐金二様
長岡御役所

三一、

乍恐書付を以奉願上〆

当寅より卯まて弐ヶ年定免明
当辰より戌迄七ヶ年定免願

一　高七百三拾石五斗弐升六合
此反別三拾弐町九反三畝七ヶ

松橋村
上組

此訳

田高六百六拾壱石三斗弐升九合

此反別弐拾弐町六反三畝拾三ト

内

高百四拾八石三斗九升壱合

此反別五町壱反四畝ト　連々引

残高五百拾弐石九斗三升八合

此反別拾七町四反九畝拾三ト

此取米百弐拾弐石六斗七升四合

内

米壱斗　定免切替増

畑高六拾九石壱斗九升七合

此反別拾町三反七ト

内

高弐斗六升七合　年々引

此反別弐畝廿一

高九石弐斗四升三合　連々引

此反別壱町壱反五畝八ト

此高九石五斗壱升

此反別壱町壱反七畝廿八ヽ

残高五拾九石六斗八升七合

此反別九町壱反弐拾九ヽ

此取米弐拾三石壱斗七升四合

取米合百四拾五石八斗四升八合

内 米壱升　定免切替増

右同断

一 高千百六拾壱石五斗壱升壱合　同 村下組

此反別五拾壱町四反四畝壱ヽ

此 訳

田高千六拾九石六斗八升四合

此反別三拾七町五反弐畝壱ヽ

内 高百四拾石五斗八升弐合　連々引

此反別四町七反弐畝拾八ヽ

残高九百弐拾九石壱斗弐合

此反別三拾弐町七反九畝拾三ヽ

此取米弐百四拾六石五斗六升九合

内 米壱升　定免切替増

畑高九拾壱石八斗弐升七合

此反別拾三町九反弐畝ト

内　高四斗弐升　年々引
　　此反別四畝六ト
　　高弐拾弐石壱斗八升五合
　　此反別弐町八反六畝廿壱ト　連々引

此高弐拾弐石六斗五合
此反別弐町九反廿七ト

残高六拾九石弐斗弐升弐合
此反別拾壱町壱畝三ト
此取米弐拾四石六升弐合
取米合弐百七拾石六斗三升壱合
内　米壱升　定免切替増

寅ハ慶応二年
卯ハ慶応三年
辰ハ慶応四年

右は当村の儀去ル寅より卯迄二ケ年定免の処当辰年季明に付継年季の儀格別の増米を以可願上旨ヒ仰渡奉畏ル得共近年未々引続凶作物価は積年の引上にて古今未曾有の高直ヨ相成百姓共殆ヒ困窮差迫り殊ヨ損地起返等の儀は追々御厳重の御吟味に付本免入又は増米いたしル儀ヨて増米の義難渋の旨申上ル処御趣意不弁段種ゝ御利解ヒ仰聞右難黙止前書の通増米仕ル間何卒格別の以　御慈悲当辰より戌迄七ケ年定免ヒ仰付ヒ下座ル様偏奉願上ゝ

戊ハ明治七年

右の通御聞届ヒ成下座ルは、難有仕合に奉存ル仍之此段村役人連印書付を以乍恐奉願上ゝ

以上

右村
下組
百姓代　与七
組頭　孫三郎
〃　佐七

慶応四辰年正月

慶応四辰年この年九月明治と改元（一八六八年）

上組
百姓代　万次郎
組頭　久五郎
名主　堀米四郎兵衛

長岡仮御役所

三三、
差上申一札の事

私共村々当辰定免年季明に付切替又は新規定免奉願上（処左之通ヒ仰渡承知奉畏ル然ル上は年季中仮令水旱損にて損毛相立ルとも田方三分以上ニ不相当分は御定免迚上納仕畑方の義は一國江も抱リル程の義は格別容易ヲ御引方不相成且田畑とも損地小前持高十分一に不相当分は御定免中御引方不ヒ仰付ル向其旨相心得右ヲ付小前連印の御請書は名主方江可取置段なも上仰渡是又承知奉畏ル依之御請印形差上申処如件

慶応四辰年（一八六八年）八月

松橋村上組
百姓代　万次郎
組頭　久五郎
〃　徳三

庄内様
寒河江御役所

三三、

乍恐以書付御歎願奉申上ル

当御支配所
羽前國村山郡
新町村
百姓 金次郎枠
〃 徳 蔵
〃 次助枠
駒 次
工藤小路村
百姓 只七二男
〃 太 七
大町村上組
百姓 房 吉
〃 善 蔵
松橋村上組
百姓 九郎右衛門

右のもの共親類組合村役人一同奉申上ゝ前書徳蔵外五人風聞不宜趣を以去月九日御召捕の上徳蔵太七房吉は入牢駒次善蔵九郎右衛門は村御預ケヒ御申付当時御吟味中の処一体同人共儀は平素農業出精罷在ル得共何れも酒を好ミ酩町の上仕成振兎角不宜ルに付右次第に至一同恐

入相慎心得違の段後悔仕以来は急度改心禁酒いたし農業出精可仕い向何様ニも御宜免の儀御慈悲願上呉い様私共江只管取掘り相歎いニ付篤ヒ相糺い処事実改心発明致い体に相見且田植時ヨ差掛り農業肝要の時節にも御座い向何卒出格の以御仁慈右のもの共一同御過怠御宥免ヒ下置い様御憐愍の御沙汰一同挙て幾重にも御歎願奉申上て　以上

右

親類組合兼惣代　左次兵衛　印
　　源　蔵　印
　　甚三郎　印

村役人惣代
百姓代　太兵衛　印
組頭　藤四郎　印
〃　久五郎　印
〃　源次郎　印

明治三年午五月十八日

（一八七〇年）

長岡
御役所

三四、

乍恐以書付奉願上て

私共村々今般当御縣御支配相成いニ付郷宿の儀当七日町足利屋新兵衛方江相頼御用相勤い様

仕度尤壱飯銀壱朱ツヽの積リ熟談仕い向何卒右郷宿の儀御聞届ヒ成下度乍恐此段連印以書付
奉願上〳〵　以上

当御支配所
谷地大町村上組
名主見習　太　三　郎
同
工藤小路村元組
名主見習　鶴　之　助
同
新町村元組
組　頭　源　次　郎
同
松橋村上組
名　主　四郎兵衛
同村　下組
組　頭　佐　七
同
大町村下組
同
新町村高関組
同
工藤小路村要害組
野　田　村

明治三年
（一八七〇年）　明治三年　十一月

山形
御役所

明治四辛未
（一八七一年）

三五、

明治四未年正月五日神主共一同山形縣より御年頭ゟ上出い節上仰渡い御書付

寫し

神職

敬神崇礼之儀ニ付テハ深遠ノ
聖慮モ被為在候條別テ御身慎其學ヲ勤潔礼典祭日夜無怠
神州國體ヲ不令辱正明ノ
神慮ニ不背様可心掛事

明治四辛未正月　　山形縣廳

三六、

醫

醫ハ濟生ノ要術衆庶之司命苟モ其技ヲ學其事ニ關スル者不容易
大任ニ候　然ルニ近世不學無術ノ徒妄ニ方藥ヲ弄　生命ヲ損ス
ル等往々有之好生之
御仁意ニ相背候儀ニ付廣ク其法ヲ採リ周ク其道ヲ盡シ至誠懇切
益勉勵可有之事

明治四辛未正月　　山形縣廳

年号記入ナキモ
明治四年
（一八七一年）ト
推定ス

三七、

山形縣專斷を以雜稅免許及布告い段兼て御法則に相悖不渦事に
い依之民部大藏両省より官員出張右布告差戻夫々處置可致樣ヒ
仰付右為心得奥羽越藩々江申達いも

二月　　太政官

三八、

乍恐以書付奉申上〆

当御管内羽前國村山郡山形縣柴橋寒河江両御出張附村々役人惣代名主共一同奉申上〆先般御
一新に付ては万民御撫恤の折柄近年凶歳打続米価並諸物価共沸騰加之辰年の動揺已来貧民一
層疲弊難渋の次第ヒ為在
御見廻今般衆を恤み深き思召を以雜稅御廃止の御布告万民一同難有奉存〆然ル処右は
御当縣ゴおゐて專斷の御布告にて御法則にも相悖リい＝付右為御引戻民部大藏御両省御官員
樣方御下向ヒ為遊諸藩江御達有之趣相承奉恐惶い就ては御上におゐても深御苦慮ヒ為在い趣
詳承仕何共恐入い次第に御座い向前願奉申上〆通疲弊必至の場合には御座い得共雜稅御免除
の御布告は奉返上い向何卒是迄の通永御支配引続郡民一同安堵勤農仕い樣いたし度此段奉申
上〆　以上

辛未八
明治四年
（一八七一年）

辛未三月

山形縣
御役所

柴寒名主共
一同連印

三九

先般雑税欠米込米等の儀申達い処於
朝廷は当縣管下のみに無之廣く民を愛し衆を恤み給ふ至大の御仁意を以天下一般税法御改正
ヒ為在い御趣意に付追て相達い迄先囲覧の通相心得可申此段相達い也

辛未三月

山形縣廳

辛未八
明治四年
（一八七一年）

四〇

乍恐書付を以奉申上て

当御管内羽前國村山郡松橋村名主堀米実奉申上て頃年御國内物産の多少自然出入損益一ヶ年
の惣括は邊土草芥中至愚の小民不可量知勿論不奉弁万事諺に井蛙の見殆と恐入い得共愚念の
思処不奉申上いも又御趣意に相悖り い義ヒ無餘義奉申上て世上の言語伝承仕い に物産多く利
益年毎に積いは、富國強兵の自然の形勢不待論産物無数損費盈過いは、兵気弛弱一和の快力

を失ひ迚年御國威にも抱い様可相成歟右様の大事は愚昧浅知の私共是非可申上様無御座い得共情慮、栄枯得失を愚考仕いに近年日用の諸物品価十倍餘ヨ相成出入の諸品比較仕い得は不平均の価不少就中郡中大一の産物干紅花青苧の義は天保の度米壱俵価金三朱程の節干紅花壱駄六七拾両程凡壱ヶ年産荷一千駄価七万金此節を駄価八九拾両諸品十倍とは六拾余万金の不足相立青苧其外の物産不平均の不益夥敷生糸蚕卵紙の増益金有之い得共素より荷数無之聊の義にて諸國より買入い繰綿木綿絹布渡来品塩干物砂糖薬種類蝋小向物類其他の数品出入い価算計仕い得は凡壱ヶ年五拾万両余正金を以損費相立い様奉存〆

右当算にいは、拾ヶ年全郡の金銭殆と盡果他國他郡より借財夥敷出来自然と日用の諸品も乏敷相成活計相續難相成迚多も

御貢上納にも差支い様可相成は眼前と歎息の至りヨ奉存、就ては愚慮仕いに干紅花其外価不平均の不足別品価を以満足仕いては養蚕茶製より外無御座い間有志の輩有之厚く心配可致い得共地面又は雑費金所持無之いては制行難相成空論に而已押移り実行難相立と奉存い尤有金のものは差当り急、にも無之一已の安危に相泥ヶ聊も憤発盡力の心得無之全郡困窮仕、いは、後患果て可及其身と不心付ものも可有之歟又生糸の儀当郡の弊習にて糸制粗略唯々簡便を旨とし陸中国清水川出産金花山銘の生糸より価五ト余の下値にて素々物品の下悪ミ無之糸制の粗悪には糸の引方甚太く其上太細更に無定則繰方も一編にて尤不揃に御座い右等の次才弁別いたし極細に引二編繰に一統念入相製いは、其利益莫大にて壱駄価七百金の処上制五分増壱千五拾金に相成いは、一百駄に付三万五千金の有益にい処数百駄の価算計仕年々増益入金仕いは、郡益不少義と奉存い前、両様心付いもの不少可有之い得共區々にては迚もヒ行間敷

且は水一養蚕茶制の義は乍恐御威光を以御精諭誘導ニ成下座其実行御賢察ニ成下勉励盡力の有無を以御賞叱御座いは、全郡困窮相凌無難永続廣大の御仁恵と難有仕合奉存、依之此段書付を以奉申上、　以上

辛未五月

辛未八
明治四年
（一八七一年）

右書面武助正兵衛両名ゟ相直ー
同人共の心付の積を以
田所権大属様江差上ゟ事
として消してある

四一

乍恐書面を以御届奉申上て

子八
元治三年
巳八
明治二年

今般河西村の社寺領去ル子より巳迄六ケ年平均収納高並元御朱印除地山林小物成等迄洩落無之様巨細取調今十七日迄寒河江御出張先江可差出旨御通達之趣奉拝承ゟ得共当組ゟおゐて右等の地所は勿論社寺共一切無御座て向此段御届奉申上て　以上

辛未六月十七て

辛未八
明治四年
（一八七一年）

山形縣
租税方
御役所

当御管内
羽前国村山郡
松橋村上組
村役人惣代
堀米実

四二、

乍恐以書付御届奉申上ゝ

当御管内私共村々当田方の儀春中より晴雨片寄不順気にて田植後雨天曇天打続快晴更ゝ無之自然元植不仕其後蒸気強く相成蝗夥く出来稲元喰枯し一同打驚虫除種々手当を盡しゝ内土用入より照続畑作大小豆荏大根等枯果ゝ場所も出来田方は寒河江川より分水の場は先え無甲斐ながら追々出穂の躰に相見ゝ得共弐分通程山寄の分沢水涌水掛場所は一圓白割黒割よ相成稲草凋黄し此上降雨有之ゝ共迚も稔申間敷と右耕地の百姓共一同悲歎涕泣罷在ゝ依之土用明当時の模様乍恐書付を以此段御届奉申上ゝ　以上

羽前国村山郡
新町村
組頭　石垣源七
工藤小路村
名主　宇井竹司
組頭　宇野三郎

辛未六月

辛未八
明治四年
（一八七一年）

山形県

御役所

大町村上組
名主　柴田　弥
松橋村
名主　堀米　実

四三、

乍恐以書付奉願上て

辰変動ハ明治元年戊辰の役

当御管内羽前国村山郡え長岡附左の村々役人共一同奉申上ゝ私共村々旧来御陣屋向近ゝ有之御用相勤罷在ル処　御維新に付山形表江御本縣ヒ為建村々同所江ヒ出御用相勤ル様去冬中御達ゝ相成歎息仕小前のもの共種ゝ難渋申聞且山内村々は不及申里方村々迚も数里相隔聊の御届願又は御呼出にて罷出ルにも往返二三日も相懸リ失費多く夫而已ならす邊土貧朴不弁の村役人情実も貫通不在自然不行届より不束の義出来ルは、恐入ル義と甚心配罷在ル処格別の以御沙汰夫々御出張所御取建万端御取締ヒ成下座一同難有安心罷在ル処無向も一ト先御引揚の御沙汰ヒ仰出速ゝ御帰縣ヒ為遊ル間一同驚歎仕自然取締相弛み遊惰のもの出来勧農勉励の輩も必然蔑農に押移リ可申尤去ル辰変動以来未タ何となく人心不穏業躰浮薄の向も有之右ゝ便リ無頼の徒立入可申哉も難斗遠方村々にては別レて取締方行届向敷殊ゝ諸上納物取立方の儀も精々可仕ル得共兎角相弛遂に不納出来無余儀御訴申上御本縣より御召出ら成御取調受ル様相成ルは、困窮の上尚一層の疲弊相増勿論山口小高の村々は諸雑費相嵩潰退転のものも出来

明治四未年八（一八七一年）

可申哉且は山形に訴ハは容易の義に有之間敷と存我意の不行多く薄力愚直のものは心得違愛
樹黙止ケ様可相成は眼前の義にて御取締不行届ケ様立至ハは、出入ハ御義旁歎敷次第、付何
卒前にヒ仰聞ハ格別の以　御仁恵最上川西江壱ケ所御分轄ヒ為建都ての御取締ヒ成度一同挙
て奉願上、　右願の通ヒ仰付ヒ下座ハは、郡中一同難有仕合奉存、　以上

明治四未年六月　　柴寒両郡村々
山形縣　　連印
御役所

四四、

乍恐以書付奉願上て

当御管内羽前国村山郡前小路村名主平十郎松橋村大町村荒町村工藤小路村四ケ村惣代工藤小
路村要害組組頭宇野三五郎奉申上、前小路村地内根際山の義は御林反別弐百九拾弐町八反七
畝廿八歩之内裏山と唱ハ反別百五拾六町六反歩并反別弐拾五町弐反九畝拾八歩ゝ場所は往古
より西里村松橋村大町村工藤小路村荒町村地元前小路共六ケ村入会小前のもの共夫々分持仕
柴賣銭と唱ひ合御役永四貫七拾四文村々御年貢御割付、組込年々上納夫々進退仕来ハ処其節
前小路村の義は米沢様御預り所に御座ハ処去ル天保十二丑年秋元但馬守様御領分渡ヨ相成翌
○寅年より秋元様御役場江上納仕居ハ処万延元申年中西里村のもの共山稼の事ヨ付地元山守の

寅年八
天保十三年

ものと爭論相発柴橋御役所と御懸合相成御取調中證人等立入示談有之義は右山と見取反米壱
升宛年々上納仕ゝは丶御役所免除聊無差支銘々進退可為致の趣に付先規の通御役所にて進退
仕度段一応歎願仕ゝ得共其埒明不申右山江不立入様にも無相成旁難義には御座ゝ得共其節は米
価至て下直米三斗九升に付金壱分一二朱位の義故深く思慮も不在唯々無故障山進退仕度存意
にて無余儀見取反米壱升の御請仕柴草等苅取罷仕ゝ処右山地味の厚薄は勿論八九分は赤白の
砂土而已ゟて苗類植付不相成甚敷場所柴草等も無之不毛の分多く反米壱升御上納仕ゝ様ゟて
は難義の次第加之追々米価高直此節の姿に押移り連年凶作困窮の上尚一層の疲弊相増難義至
極に付素の御役所に立戻り見取米の義は御免除ゟ下座ゝ様歎願の義ゝ前一同度々相歎ゝゝ付
其段申上ゝ得共其侭にて御免除不相成追々未進相嵩地元村役人は勿論遠近村々役人一同当惑
仕此上永続可仕見詰更に無御座尤前ニ奉申上ゝ通地味厚薄ゟ寄難易の差別ゝ前毎ゟ出来何分
不平等に付民心居合も不宜何卒格別の思召を以右見取場御見分の上御明察ヒ成下座作付可成
出来ゝ場所は無余儀次第にゝ得共右不毛の分は荒地引にゟ成下窮民御救助ヒ成下座ゝは丶廣
大の御慈悲と難有仕合奉存丶依之此段乍恐書付を以奉願上丶　以上

工藤小路村要害組
組頭　宇野三五郎

辛未七月

山形
御役所

辛未八
明治四年
（一八七一年）

四五、

乍恐以書付奉願上て

当御管内羽前村山郡松橋村上下両組役人共奉申上て今般雑税の内有来無実の分何年何様の何を以納始め何年より相休又何年より納来り且何の誰様御支配の頃より相始り右年数起立委く取調来月朔日迄差出可申旨御達の趣承知奉畏い当村の儀は速ヶ役替りしその書類紛失いたし何分調向疎と出来かね恐多奉存い得共谷地郷と唱ひい村々は従前組合同様に仕来い向今般隣村大町村三組より差上い次第ゝと別段振合相替りい義も有之向歎と乍恐奉存く向此段書付を以奉申上て　以上

辛未七月

松橋村上下両組
役人惣代
組頭　田代佐七
名主　堀米実

辛未八
明治四年
（一八七一年）

山形縣
租税方
御役所

四六、

乍恐以書付奉申上て

当御管内大町村外三ケ村役人共一同前小路村地内字根際山御林見取場御見分之儀奉願上い処
来ル十五日頃御見分ヒ成下置いに付小前持場帳明路絵図面取調万端無差支様可致旨一昨八日
ヒ仰渡承知奉畏い然る処絵図面江小前持分限明細書入いには村々役人一同打寄小前銘々及立
會取調い儀に付場所地境等再応相糺い分も可有之旁不行届之儀出来いては恐入い儀に付来る
十七日迄精々取調十八日頃奉御見分請い様被成下置いはゞ難有仕合に奉存い依之乍恐此段書
付を以奉申上い　以上

辛未九月十日　　大町村外弐ケ村代兼
　　松橋村
　　名主　堀米実

山形縣
御廳

辛未八
明治四年
（一八七一年）

四七

乍恐以書付奉申上ゝ

当御管内松橋村役人奉申上ゝ今般除地有無共明細取調来ル廿日迄可申上旨ヒ御申聞承知奉畏
い然ル処当組には除地無御座ゝ仍て乍恐此段書付を以奉申上ゝ　以上

辛未　九月十八日　　松橋村上組
　　名主　堀米実

山形縣
御廳

辛未八
明治四年
（一八七一年）

記

一金百弐拾両也　松橋村上組
一〃弐百両也　同村下組
一〃弐百九拾両也　大町村上組

右は当未石代金之内書面之通御上納仕度奉願上〆　以上

前同断

名前

四八

記

一米拾四石五升　官録置米
内
米三石五斗　当村困窮人江御救助ト下米渡し

右は当村置米の内渡米書面之通御座い　以上

辛未十二月

山形縣

御役所

第二十一区
六番　松橋村上組

松橋村上組
百姓代　板坂弥平
組頭　布川万次郎
〃　嶌田久五郎

辛未ハ明治四年（一八七一年）

四九

乍恐書付を以奉願上て

当御管内才十一区松橋村両組大町村上組役人一同奉申上て私共村々当未御貢米の儀田米其外皆石代奉願上て に付年内大分通御上納可仕旨今般ヒ御申付承知奉畏い然る処小前取立方勉励罷在い得共何分捗取ふ申い向夫食米融通請取渡未タ不行届依ては重立百姓手元繰合差替御上納可仕い得共月迫にて迚も調合難相成無拠別紙の通内金上納仕残金の義は来春上納金御上納の節迫には聊無相違御上納可仕い向右願の通御聞届ヒ成下置い様幾重にも奉願上い　以上

辛未十二月

当御管内
第廿一区　松橋村上組
百姓代　板坂弥平
組頭　布川万次郎
〃　島田久五郎

同村下組
百姓代　山本勘平
〃　阿部与吉
組頭　板垣佐五兵衛
〃　宇野仁左ヱ門
〃　宮地孫三郎
〃　田代佐七
重百姓　宮地次兵衛
秋場文蔵

辛未ハ明治四年（一八七一年）

大町村上組
百姓代　武田信八郎
組頭　横田藤四郎
〃　横田義藏
〃　桜井源三郎
惣百姓　細矢太郎左エ門
〃　奥山正三郎
名主　柴田弥

山形縣
御役所

五〇

乍恐書付を以奉願上、

去ル午より未迄　弐ヶ年　定免明
当申より戌迄　三ヶ年　定免明

一高　七百三拾石五斗弐升六合　松橋村上組
此反別三拾弐町九反三畝弐拾ト
此訳
田高六百六拾壱石三斗弐升九合
内　此反別弐拾弐町六反三畝拾三ト

午六明治三年
未八〃四〃
申八〃五〃
戌八〃七〃

高百四拾八石三斗九升壱合
此反別五町壱反四畝ト
――此向反別等略す――

右は当村の儀去ル午より未迄弐ヶ年定免の処当申年季明に付格別の増米を以往年季の儀可願上旨ヒ仰渡奉畏い得共迚年来引続違作物価は積年の引上にて百姓共殆ヒ困窮差迫いに付増米の義難渋の旨申上ゝ処御趣意不弁段種ゝ御利解ヒ仰聞右難黙止前書の通増米仕ゝ向何卒格別の以 御仁意当申より戌迄三ヶ年定免ヒ御申付ヒ成下置い様此段連印書付を以偏に奉願上ゝ

以上

右村上組
百姓代 板 坂 弥 平
組 頭 布 川 万次郎
〃 嶌 田 久五郎
下組
百姓代 山 本 勘 平
〃 阿 部 与 吉
組 頭 板坂 佐五兵衛
〃 宮 地 孫三郎
〃 宇野 仁左衛門
〃 田 代 佐 七

明治五年壬申
（一八七二年）
明治五年
壬申二月

山形縣
御役所